

令和4年3月2日

当院脳神経外科で脳動脈瘤に対する治療を受けられた患者さん・ご家族様へ

研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものです。研究のために、新たな検査などは行いません。この案内をお読みにになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないとのご意思がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2003年1月～2012年12月の間に、国立循環器病研究センター脳神経外科に未破裂脳動脈瘤で入院し、バイパス術を併用した母血管閉塞術を受けた患者さん

【研究課題名】大型・血栓化脳動脈瘤に対するバイパス併用手術の長期成績に関する研究

【研究代表者】京都大学 脳神経外科 教授 宮本享

【研究責任者】国立循環器病研究センター 脳神経外科 部長 片岡大治

【研究の目的】脳動脈瘤はくも膜下出血の原因となる疾患であり、一定以上の破裂危険性を有する未破裂脳動脈瘤は外科治療の対象となります。通常の脳動脈瘤は開頭クリッピング術や血管内治療にコイル塞栓術により治療を行いますが、10mm以上の大型脳動脈瘤や血栓化動脈瘤に対してはこれらの標準治療による治療が不可能なことが多く、バイパス術と母血管の閉塞が治療法として選択されます。当院でも、クリッピング術やコイル塞栓術で治療することができない難治性の大型・血栓化脳動脈瘤に対して、この手術を行ってききましたが、バイパス術を併用した術式を開発し、その術式で多くの症例の治療を行ってきており、一定の治療効果や安全性が確認されていますが、その長期成績については明らかでない部分があります。

この研究は、大型・血栓化脳動脈瘤に対するバイパス併用手術の長期成績を調査する目的で行われます。

【利用する診療情報】

- ① 治療前の観察項目：年齢、性別、脳動脈瘤の部位・大きさ・血栓化の有無、併存脳動脈瘤の有無、術式
- ② 治療 2-4 週間後の観察項目：周術期合併症、動脈瘤の血栓化の状態、術後の日常生活動作。
- ③ 最終診察時の観察項目：最終受診時の動脈瘤の大きさ・血栓化・破裂の有無・日常生活動作、観察した期間。

【外部機関への研究データの提供】

上記の診療情報を、次の研究機関に提供して、共同で研究を進めます。

・ 共同研究機関及び研究責任者

研究責任者：宮本 享 （京都大学 脳神経外科 教授）

研究担当医師：吉田和道 （京都大学 脳神経外科 准教授）

〒606-8507 京都市左京聖護院川原町 54

京都大学 脳神経外科

Tel 075-751-3459 Fax 075-752-9501

E-mail kazuy@kuhp.kyoto-u.ac.jp

【研究期間】倫理審査承認日から2024年3月31日までになります

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

【問合せ先】 国立循環器病研究センター 脳神経外科 池堂太一

住所 564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号

電話番号 06-6170-1070（代表） FAX 番号 06-6170-1884